

楽踊楽座 全国行脚 記録

行脚 No.34

日時	2013年9月29日
行脚先	松巖寺
住所	大分県中津市寺町（豊前国）
行事名	第8回中津音頭大会と黒田Bushi

特徴

奥平家6代昌章実父の菩提寺です。
延宝6年(1678年)、奥平家6代目の奥平昌章が実父・五島淡路守盛勝の菩提を弔うため、現在の栃木県宇都宮市に建立しました。
実父の戒名が「松巖寺殿罷屋寿休大居士」であったため、「松巖寺」と名付けられたそうです。
享保2年(1717年)、奥平氏の転封に伴い中津に移転しましたが、同19年(1734年)の中津大火で焼失。
現在の本堂は文政11年(1828年)に再建し、昭和63年(1988年)に大改修を施しています。
隣接する観音堂は明治26年(1893年)10代目忍峯和尚の時、地元篤信者の発願により建立されました。
本尊には千手千眼観音立像を奉っており、毎年8月9日に行われる「七観音参り」の時にのみ公開されています。
本堂前の美しい石庭と沙羅双樹の木が特徴的です。

黒田官兵衛との関わり

慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦いの勃発時。
石田三成が大坂に残っている大名の妻子を人質にしようとしたのですが、明智珠(細川ガラシャ)が拒否して玉造の屋敷に火を放ちました。
この際、黒田官兵衛の家臣たち(栗山利安、母里友信、宮崎重昌)は監視の目が薄くなったのを見計らい、黒田官兵衛の正室・光姫(榎橋光)を黒田長政の正室・栄姫と共に、長柄の屋敷から官兵衛の居城の豊前国中津城まで船で脱出させました。
官兵衛は領内の住民を城内に招き入れ、北原人形芝居などを催して、光姫無事の帰還を共に喜んだそうです。
この北原人形芝居は命からがら中津に帰ってきた光姫と栄姫の心を慰めたそうです。
松巖寺で光姫の命日8月26日に開催される追善法要では、市内の北原人形保存会による北原人形芝居も奉納しています。

記録

